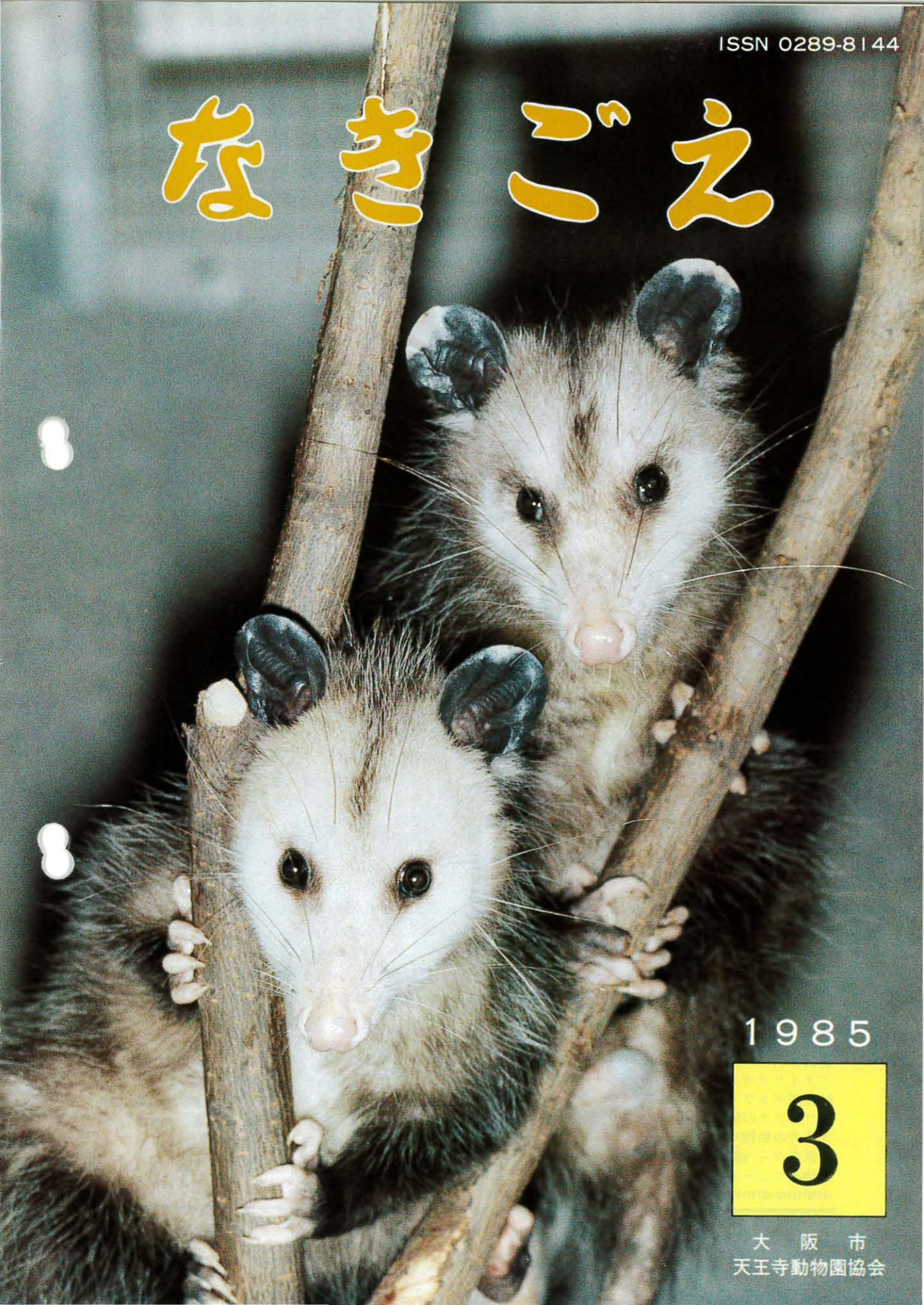
ISSN 0289-8144

なきごえ



1985

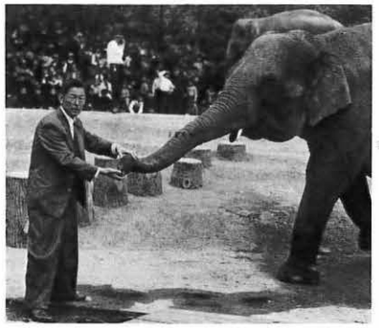
3

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

動物とともに40年

寺内信三（のぶぞう）



私が天王寺動物園に入園致しましたのは、大正12年5月でした。以来、筆舌につくしがたい悲喜交々の40年を動物たちと共に送って参りました。

大正14年、入園して2年目、日本で初めて駝鳥の卵の人工孵化に成功しました。お粗末な石油ランプ式の特殊孵化器を用いましたが、方法は五里霧中でした。当時まだ「そんなバカな……」と頭から問題にされなかった時代ですから、八か月の苦闘の末、最初の雛が卵を割って元気よく出てきた時ほど嬉しかったことは、私の生涯において忘れがたいことでした。

昭和になって、他市の動物園に先がけて、縞馬、オランウータン、ロッペン鳥、ロリス、わおきつね猿、チンパンジー、象、ライオンなど珍奇な動物や飼育困難な動物も入園し、日本を代表する動物園へと発展していきました。

チンパンジーの“リタ嬢”の芸達者ぶりは、全国的にも有名になり、動物園の人気を一手にかっさらいました。“キリン”のキンちゃんも関西ではじめてお目見えし、市民に和やかな親しみとなりました。

昭和9年6月、天王寺動物園と朝日新聞社の企画で、隠岐島、竹島（リャンコウ島）方面へ、海獣狩りと海鳥の生態観察のため、日本海の荒海を13トンの小舟に身を託して行きました。当時動物園には、海獣が少なかったのです。16頭を捕獲してきました。

初代林園長に代わって、二代目園長のポストを継いだのは、昭和18年1月のことでした。

世相は厳しい戦時色に塗りこめられていました。

天王寺動物園と私

次第に少なくなってゆく食糧も、戦争に勝つための何の役目もしない動物園への配給は、今まで通りにゆかなくなりました。動物にも節約による愛国運動が及び、絶食日や代用食をするようになり、食糧対策に頭を悩まし、農林省へも特別配給方を陳情しました。又、カボチャの種や一部腐敗した芋なども、利用出来る限りのものを飼料にもしましたが、しかし動物の栄養失調死は免れませんでした。

戦争が深刻になるにつれて、動物園には、未曽有の一大悲劇が到来しました。食糧難と空襲に備えての“殺処令”が出されたのです。学術研究にも相当貢献した動物たちが、戦争のため国に殉じたのです。実に悲惨の極みでありました。

悪夢のような戦争も、ようやく終わりましたが、戦争で受けた被害は惨たんたるものでした。広々とした園内はガランと空家同然となり、もはや動物園ではなく静物園、養鶏園、家畜園などと皮肉られたこともありました。

そのうち動物園の復興が叫ばれるようになりました。娯楽にうえている子どもたちに少しでも楽しんでもらえる動物園に復活せねばと職員一同、必死になって動物集め、飼料集めに東奔西走しました。

昭和25年4月14日、タイ国から待望の象の“春子”が来ました。戦後初の輸入動物です。この象を一目見ようと狂喜する市民、子どもたちで開園以来の新記録（10万人を越す人出）となりました。「大阪の人たちが、これほど喜んでくれるとは……。」誠に感激の至りでありました。

象に次いで、錦蛇やチンパンジー、ライオン、虎、白熊などの動物が入園して動物園らしい形態にもどり、力強く再建の第一歩を踏み出したのです。

園内は拡張につぐ拡張がなされ、ゴリラや犀などの珍獣、巨獣も入園し、戦前の全盛時代より以上の姿に復活してゆきました。

開園70周年に当たり、日本有数の近代的動物園として充実した天王寺動物園のなお一層の繁栄を心から願ってやみません。

（写真は筆者と入園したゾウの交歓風景）

（二代目天王寺動物園長）

なきごえ3月号もくじ

動物と私 …… 2
“タイリクモモンガ” …… 3
動物園グラフ・動物園日記 …… 4·5
ハリモグラの飼育 …… 6·7
天王寺の動物たち 41 …… 8·9
獣医室から ㊱ …… 10
動物園ニュース …… 11

表紙の写真説明

キタオポッサム

ネズミを思わせる顔付をしたキタオポッサムですが、実はカンガルーと同じ有袋目に属す動物です。その生活力は強くカナダの南部からアルゼンチン北部にまで広く分布します。

（撮影：長瀬　健二郎）

“タイリクモモンガ”

モモンガはリスの仲間で、頭胴長17cmの小さな動物です。ヨーロッパからアジアにかけて、広く分布しています。ムササビのように皮膜を広げて枝から枝に飛びます。エサは、ドリンクなどの木の実を好んで食べます。新しい夜行性動物舎で元気にしています。

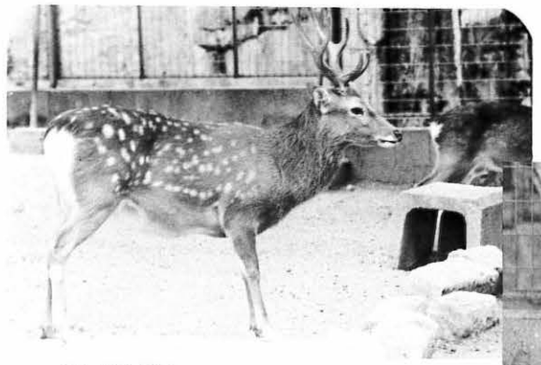
（撮影：野口秀高）

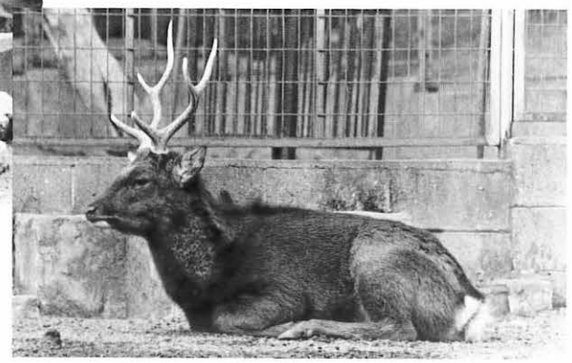
動物園グラフ

“動物の夏服、冬服”

私たち人間は、暑い夏は薄着、寒い冬には厚着をして気候の変化に適応していますが動物たちはどうでしょうか。今月は、動物の夏と冬のちがいを特集してみました。すべて左が夏、右が冬の動物です。

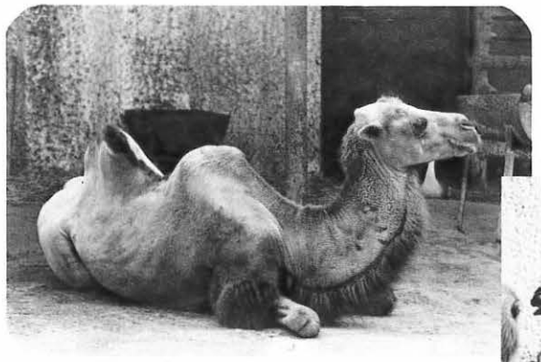
（撮影：榊 原 安 昭）





○ニホンジカ

夏のニホンジカには、白い斑点があります。これは夏の森での木もれ日の中では目立ちにくく保護色になっています。冬には木の葉がほとんど落ちてしまうため、目立たない一様な褐色の毛に変わります。



○フタコブラクダ

動物は季節に合わせて夏毛、冬毛と変化しますが、一番目立つのがこのラクダです。夏はほとんど皮膚が見えるほど体毛がまばらになりますが冬は長い毛におおわれています。冬毛から夏毛に変わるときは皮膚病ではないかと思われるほど、ボロボロの姿になります。

1・2月の動物園日記

1／9．クロサイの尿検査を行ないました。

1／11．タスマニアデビルの内部寄生虫の駆虫を行ないました。
アカカンガルー“コリン”の仔が育児のうより顔を出しました。

1／12．オランウータン“サツキ”の尿による妊娠チェックを行ないました。

1／13．イワトビペンギンが1個産卵しました。
ボランティアーによるスポットガイドが水禽放養舎前にて実施されました。

1／15．夜行性動物舎のオープンセレモニーが、大島市長夫人をまじえて開催されました。

1／17．フラソワルトンの雌に少し鼻出血がみられたので、すぐ治療を開始しました。
コウノトリが右下腿骨を骨折したため、手術を行いました。

1／18．なきごえ編集会議が行なわれました。

1／19．キーウィのオス“ジュン”がびっこをひくので診察を行ないました。
イワトビペンギンが2個目の卵を生みました。

1／21．バーバリーシープの雄で元ボスが急死しました。

1／23．ドールが交尾しました。
ハイイロカンガルー“アンネ”の育児のうに子供がいることを確認しました。

1／24．入院治療中だったコウノトリがその介なく死亡しました。

1／25．タスマニアデビルの“クロベー”と“ミミ”に交尾様動作がみられました。

1／26．カリフォルニアアシカの成雄が、胃内異物からの衰弱で死亡しました。

1／27．タスマニアデビルの“クロベー”が交尾姿勢をとり“ミミ”を放そうとしないため、運動場には出さないことにしました。

1／29．ケープペンギンが1羽ふ化しました。
アビシニアライオンの雄“フジオ”が血便したため、さっそく治療をはじめました。

1／30．クロサイの雌の妊娠鑑定を行ないました。

1／31．シマウマとリュウキュウイノシシの内寄生虫の駆虫を行ないました。

2／1．タスマニアデビルの“クロベー”と“ミミ”が交尾しました。

2／3，タスマニアデビルの“クロベー”と“ミミ”に闘争の気配がみられるので、2頭を離すため、クロベーのみ運動場に出しました。

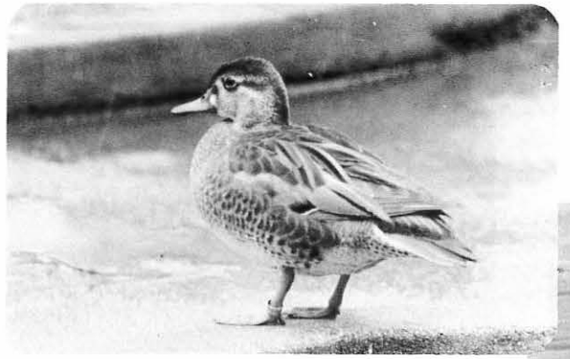
2／4．キタオポッサムの検便を行ないました。

2／5．ツグミを1羽保護しました。

2／7．キーウィの雄“ジュン”が、夜行性動物舎でよく鳴くようになりました。

2／10．アジアゾウの“春子”が、左の牙を15cmほど折ってしまいました。
キーウィの“ダイ”（メス）が死亡しました。

2／11．東京動物園ボランティアーズ6名の来園がありました。

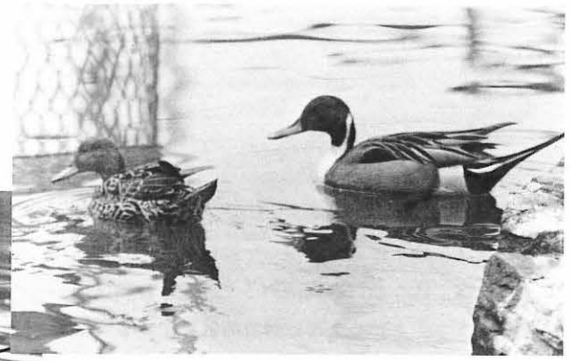


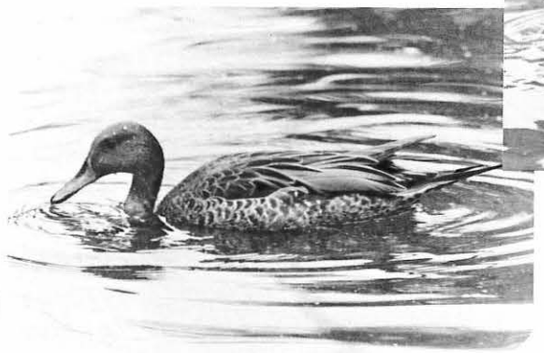
○トモエガモ

カモ類の換羽

ほとんどのカモ類は、オスはあざやかな色彩の羽毛をしており、メスは目立たない羽色をしています。

しかし、繁色期の終る6月頃からオスはエクリプスといわれる換羽に入り、メスとほとんど見わけのつかない姿に変わります。





○オナガガモ（右がオス、左はメス）

ハリモグラの飼育

昭和58年10月に、オーストラリア・メルボルン市のビクトリア製造業会議所と大阪商工会議所の姉妹会議所の縁組を記念して、２頭のタスマニア産のハリモグラ、オス“TOMA”とメス“MATOKO”が贈られて来ました。飼育を始めて１年半になろうとする、この変わった動物ハリモグラをご紹介しましょう。

贈呈式

ハリモグラは、モグラと名のつくもののモグラと全く関係のない動物で、モグラは、食虫目・モグラ科、ハリモグラは、単孔目・ハリモグラ科です。

モグラは、地下に横穴を掘って移動しますが、ハリモグラは、体を砂の中に沈めるだけで、移動は地上で行います。きわめて原始的な哺乳類で、カモノハシと同じく、卵を産み、生まれた仔はお乳を飲んで育ちます。といっても、メスには乳房はなく、汗

“TOMA”と“MATOKO”

腺のようなものからにじみ出てくる液体をなめます。

全身は、針状の毛でおおわれていて、見たところ、大きなタワシのようです。毛の長さは、ほぼ５～６cmぐらいで、根元が黄色で、先の方が黒くなっています。敵に襲われると、この毛を逆立てて、ボールのように体を丸めたり、体を砂の中に隠したりして身を守ります。

日中は、ほとんど眠っていて、夜、活動するため、目はよくありませんが、音とにおいにはとても敏感です。

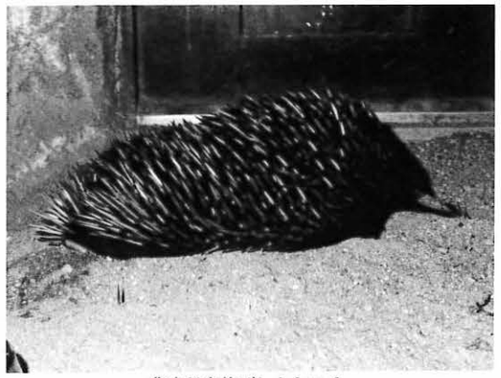
野生では、アリやシロアリを食べていますが、当園では、馬肉ミンチ・ミルク・卵黄などを混ぜた餌を与えています。食性に適応してアリの巣を掘るのに都合のよいがんじょうなツメと長い口先、アリをとるためのミミズのような長い舌を持っていますが、歯がなく、口の構造は、アリクイによく似ています。また後足のツメには毒があると言われています。

採食中のハリモグラ

当園のハリモグラは、音がしたり、ガラスをたたかれたりして、驚いた時には、前後の足で砂を両側に押しのけて、わずか数秒で、体を砂の中に隠してしまいますが、その反面、私が観察のために、部屋の中に入ってじっとしていると、長靴の中に顔を突っ込んでくる程、好奇心が旺盛なところもあります。

おもしろい行動としては、地面にべたっと寝そべり、普通は丸々している体が、長細く見える程、背筋を伸ばしたようなかっこうをしたり、壁に沿って立ち上って、人工の巣穴によじ登ろうとして、まれに、ひっくり返って仰向けになったりすることがあります。また、背中やお腹を、後足の長いツメを使ってかいている姿は、とてもユーモラスです。

今年の１月15日にオープンした夜行性動物舎へ引っ越しする時に、ハリモグラを地面から持ち上げよ


背すじを伸ばしたところ

うとすると、ものすごい力で砂にしがみついて、なかなか離れず苦労しました。。まるで吸盤でもついているかのようで、シャベルですくいあげるようにして持ちあげましたが、背面は針でおおわれているため、持つ部分が少なく、取り扱いに大変でした。

夜行性動物舎に移すまではキーウィ舎の隣で展示していましたが、この時には昼間はほとんど動きが見られませんでした。夕方、静かになるとモゾモゾと動きだしましたが、それでも人の足音がしたりするとすぐに砂の中に隠れてしまい、大変憶病で神経質な動物だと思いました。夜行性動物舎に移してからは、朝の10時から夜の10時までが人工的な夜の世界になりますので、この間に活動します。それでもガラスがたたかれたり、大きな話声が聞こえたりすると、動きがとまります。特に、入園者の多い日にはハリモグラの採食量までも減少します。徐々には慣れてきていますが、びくびくした行動では見ていても楽しくはありません。ハリモグラが落ちついて自然な

立ちあがりかけたところ

行動をしているところをご覧いただくためにも、動物をびっくりさせないように静かに見守ってほしいものです。

一昨年、現地オーストラリアでハリモグラを見る機会がありましたが、どこの動物園でも昼間にハリモグラが走りまわっていました。まるで昼行性動物のように動くハリモグラを見ていただけに、当園のハリモグラがどうして神経質なのか納得のいかないところなのですが、シドニーのタロンガ動物園ではアルビノのハリモグラを飼育していました。光に弱いアルビノ種でさえも動きは活発でした。

アルビノ種

来園してから１年半ほどたちましたが、体格もひとまわり大きくなり、体重も1.5倍に増加しました。ペアの相性もよいので、これからは二世誕生が楽しみです。世界の動物園でも数例しか繁殖していないだけに、大いに期待したいものです。

皆様も夜行性動物舎にお越しになられて、この極めて原始的な卵を産む哺乳類の生態をとくとご覧ください。

（飼育課：大川光雄）

ハリモグラの体重の変化（kg）

	S.58.10/5	S.59.6/9	S.59.8/29
トーマ♂	5.8	7.8	9.5
マトコ♀	5.0	7.4	7.2

天王寺の動物たち 41

トラ ㊸

オスとメスが鼻をすりつけて挨拶しています。

§ トラの食事

ゾウ、サイ、マレーバク、スイギュウ、サンバー、ニルガイ、ヤマアラシ、ワニ、カメ、サカナ、ネズミ、カエル、カニ、イナゴ……。哺乳類、爬虫類、両生類、魚類から昆虫まで並んでいますが、これらはインドで観察された、トラのメニューに上った動物達です。勿論、普段、トラはシカやカモシカといった草食獣が主食なのですが、エサが少なくなるとカエルやイナゴまで食べるのでしょう。時には鳥の卵や木の実まで食べているのが観察されています。

また、非常にまれですが、ゾウやサイなどをねらうこともありますし、ある人はガウルという野生のウシを襲ったのを見ています。この牛は気の荒いオスで、体重は700kgもあったそうです。

トラは獲物を捕ると水際に運ぶことがよくありますが、ある時、ガウルの死体を12mも運んだトラがいたそうで、後で男の人13人でこのガウルを引っ張ろうとしましたが、それができない程重かったそうです。また他の例では馬を 500mも引きずったものもいたそうです。

トラはこのように大変力が強い動物です。この体力を維持するために相当な量の食物を食べます。野生のものでは広いテリトリーを歩くため体力の消耗が激しいのか、1日に7～9kgもの肉を食べるとされています。また野生ではいつ獲物にありつけるか判りませんから、食だめもききます。あるシベリアトラは1回の食事で30～50kgもの肉を食べてしまったそうです。しかし、動物園では毎日決まった時間に規則正しくエサを与えますから、太り過ぎにならないよう、馬肉3kg、鶏肉2kgを週6回与えています。

トラは水を嫌いません。

§ シマ模様

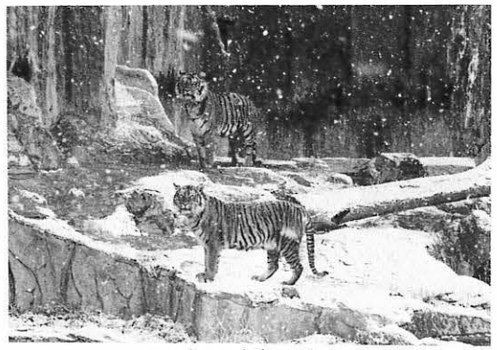
トラは広い意味でネコの仲間に入りますが、普通のネコの仲間と違い、水泳が大変上手で、海を何kmも泳いで渡った例もあります。しかし、面白いことに木登りは下手で余程のことが無い限り木には登りません。同じネコの仲間達が水を嫌い、木登りが上手なのとは好対照です。

時々聞く質問に、トラにはシマ模様がありますが、その下の皮膚にも模様があるのですか、というのがあります。これは以前、グラントシマウマの項で説明しましたが、シマウマと同様、トラも皮膚にシマがあります。つまり、あの黒いシマは皮膚の黒い部分から生えているのです。これは手術の時などによく判ります。人でもそうですが、手術する際には感染予防の為、手術する部位の周囲の毛は全部、カミソリで剃ってしまいます。こうすると皮膚にある黒いシマ模様がはっきりします。

皮膚に毛皮の模様と同じ模様がついているということでは、ヒョウやジャガーでも同じです。ヒョウ、ジャガー、ライオン、ユキヒョウ、それにトラの5種で「ヒョウ属」というグループを作りますが、これはネコ科の中でもより近い親戚筋をまとめたものです。特に、ヒョウ、ジャガー、トラ、ライオンは近く、これらの4種はいずれも交雑し雑種を作ることが可能です。自然界ではこんなことは起こり得ませんが、有名なレオポンや、以前、天王寺で生まれたライガーなどはこれら4種が非常に近縁な動物であることを示しています。

ライオンとトラの雑種、ライガー。

§ トラのなわばり



トラは寒さにも強い動物です。

前回に書きましたように、トラは大変分布域の広い動物ですが、これは獲物、水、かくれ場というたった3つの要素があればどこにでも住むことができるためだとされています。暑さや寒さにも強く、高度4000mのヒマラヤの山中や、気温が零下45度にも下るシベリアにも住んでいます。

行動は単独で、各個体はその個体独自のなわばり、テリトリーを持っています。このテリトリーの広さは獲物の量によって変化し、たくさんいるところでは狭く、少ないところでは広くなります。広いものでは2500㎢の例がありますが、これは大阪市の面積の12倍にもあたります。

トラの赤ちゃん。

このテリトリーはトラにとって自分の狩り場になるわけですから、他のトラが勝手に出入りしては困ります。そこで、ここは私の領地だと宣告する必要があります。人間だったら柵でも作るところですが、それができないトラは要所要所にオシッコをかけます。トラは尿を真後ろへスプレイのようにシャッ、シャッと飛ばします。こうしてにおい付けをするわけですが、このオシッコには特有の腺組織から出るにおいの素が含まれていて、その個体独特の臭いを放ちます。こうしておくとよそから他の個体が侵入して来ても、 このにおいを嗅いで、 先住者がいることを知るわけです。ですからこのオシッコは表札がわりと言えるかも知れません。

天王寺ではオリと施飼場の2カ所で計5頭のトラを飼っていますが、放飼場の壁が老朽化してきたため、昨年から今年にかけて改造工事を行いました。完成した壁はうす緑のとても落ち着いた色で、トラも浮き出た感じでとても見易くなりました。どうか皆さんも見易くなった放飼場のトラを是非見に来て下さい。

（長瀬　健二郎：飼育課・獣医師）

獣医室から ㊱

☆胃の中は小石が一杯

1月27日、カリフォルニアアシカのオスが死亡しました。個体No.48，愛称シロ，推定年令17才、最盛期には体重200kgをこえる威風堂々とした体軀で、7頭のメスを従え、昭和53年から6年間にわたり20頭の子を出産（4流産を含む）させた功績はすばらしいの一語につきます。しかし昨年はどういうものか1頭も赤ちゃんが生まれず、7年連続の繁殖はなりませんでした。シロ君もそんな老令でもないし、不妊の原因もつかめないまま冬を迎えた頃、シロ君の体が一まわり小さくなったことに気がつきました。餌は食べるのになぜかやせる一方です。そして手もつくせないまま死に至りました。アシカは肺炎や腹炎が原因で急死することがありますが、今回の場合は3カ月という慢性経過をたどりました。

胃の中から出てきた石（洗面器3杯分）
左のタバコの箱と比べて下さい。

解剖の結果、驚くべきことが分かりました。なんと胃の中には大小さまざまな小石がぎっしりつまっているではありませんか。重さにして10kg。死亡時の体重が120kgとかなりやせていましたが、その体重の12分の1が小石なのですから……。小石は直径1cmから6cm大まで、ざっと数えても500個以上、とても数えきれませんでした。小石の他に単三乾電池が2個。胃はこれらの異物のために一杯にふくれあがっており、とても餌の魚を食べる余地はなさそうです。何も食べないのにおなかは常に一杯でもたれ気味、といった感じでこのアシカのシロ君は生きてきたのでしょう。

なぜこのようなことが起こったのでしょうか。餌の魚と小石の区別ぐらいは当然つくはずです。しかしアシカという動物はどういうものか、投げこまれたものを反射的に口にくわえて飲みこんでしまうことが多く、無差別に何でも食べてしまいます。一説には、胃の中の石は消化を助けるために必要であるといわれていますが、それも限度があります。今回のように胃一杯ではただ死の原因となるだけです。

ところでこれらの小石はどこから来たのでしょうか。週一回、アシカの池は水を全部ぬいて清掃します。アシカの飼育している場所はセメント床で小石はありません。園内では動物に投げこまれないようにできるだけ小石は処分していますし、園路はすべてアスファルト舗装しています。そうなると、誰かがどこかで小石をわざわざ拾ってきて、アシカに放り投げたとしか考えようがありません。数十個の石ならともかく,500個以上はあろうと思われる石を見ていると何か人間不信におちいりそうです。石を食べるアシカがそんなにおもしろかったのでしょうか。

昭和49年、中国の上海動物園にアシカを1ペア贈った関係で、当園のアシカがメスばかりになったことがあります。その時、千葉県の鴨川シーワールドのご厚意で、そこのスターだったシロ君を当園のメス1頭と交換していただきました。昭和51年7月のある日、私自身が鴨川まで出張し、そのシロ君とトラックに同乗して大阪に戻って来ました。暑さに弱いアシカだけに夜に走りました。東名、名神の高速道路のサービスエリアごとで止まり、バケツに水を汲んできてはシロ君の体にかけてやったことが昨日のことのように思いだされます。

不用意に食べるアシカが悪いのか、小石を投げこんだ人が悪いのか、いずれにしてもシロ君はもう戻って来ないのです。

（飼育課：宮下　実）

動物園ニュース

§　カンガルーのおめでた

10月23日に袋の中に赤ちゃんが確認されたアカカンガルーの“コリン”の赤ちゃんは日に日に大きくなっており、2月に入ってからは袋から顔を見せる時間もずい分長くなってきました。この「なきごえ」が発行されるころには、袋から赤ちゃんが出てくるようになっているかもしれません。

一方、ハイイロカンガルーの“アンネ”も1月末に袋の中に赤ちゃんが入っているのが確認されました。袋のふくらみは、少しずつ大きくなってきていますので、まもなく袋から顔をのぞかせているかわいい赤ちゃんの姿をご覧いただけるでしょう。

§　ケープペンギンのふ化

1月29日、ケープペンギンのひなが1羽ふ化しました。昨年11月24日についで、今シーズン2羽目のふ化となりました。ペンギン舎では他にもう一番のケープペンギンとイワトビペンギンが抱卵中ですので、これからが楽しみです。

§　夜行性動物舎はおおにぎわい。

1月15日に一般公開された夜行性動物舎は、たいへん好評でたくさんの入園者でにぎわっています。例年2月はたいへん寒く、入園者はまばらですが、今年は昨年の秋に来園したタスマニアデビルとこの夜行性動物舎を見るために訪れられる人が多く入園者数は増加しています。天気もよかったため2月10日、11日の連休には有料入園者（中学生以下は無料）は10日が6,837名、11日が、10,538名とこの季節にはない多数の入園者がありました。ちなみに、昨年の2月の1ヵ月間の有料入園者数は18,726名でしたので、いかに入園者が多いかおわかりいただけるでしょう。

今後も、いろいろな新しい施設を計画し、みなさんに楽しく動物を見ていただける動物園にしていきたいと思います。

§　今冬の園内の野鳥

寒さの厳しかった昨冬とは異なり、シジュウカラがあまり観察されていません。そのかわり、ここ数年来あまりみかけなかったエナガが、11月初めから1月中旬まで、時々見られました。12月23日には昨シーズン初めて観察されたコゲラが今年も観察されました。

南園の日本庭園へのカモの飛来はほとんどがカルガモですが、昨シーズンとは異なり、午前中にはほとんど観察されず、昼から餌を与える時間に飛来するようで、夕方には多数観察されています。カルガモ以外のカモでは、マガモ（オス2羽、メス1羽）が12月30日から1月25日まで飛来し、ヒドリガモ（オス1羽）が1月29日以来ずっと滞在しています。

§　園内花だより

“デージー”を北園カモシカ園北側の花壇と中央門を入ったところの白雪姫時計横の花壇に植え付けました。まもなくかわいい花をご覧いただけるでしょう。また、水仙300本、チューリップ7品種4000球を園内名所の花壇に植え込みしていますので4月に入れば順次美しい花を咲かせるでしょう。動物園へお越しの時は動物と共にお楽しみ下さい。

◉お知らせ

“大阪動物園ボランティアーズ10年展”を北園展示館で行ないます。今年で結成10年をむかえた大阪動物園ボランティアーズの10年の歩みを写真や資料で紹介します。期間3月17日～4月14日

☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

現在の飼育動物数
（1985年1月31日現在）

哺乳類	12目	106種	430点
鳥　類	19目	183種	590点
爬虫類	3目	31種	75点
計	34目	320種	1,095点

＊ 休園日のお知らせ ＊

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。5月までの休園日は下記の通りです。
3月18日(月)、4月15日(月)、5月20日(月)、
開園時間は午前9時30分～午後5時で、午後4時に切符売止めになります。

すてき満喫

近鉄クレジットカード

●全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
●カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
●繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
●入会資格は20歳以上で2年以上お勤め、または自営の方です。

近鉄百貨店

お申込み・お問合せは各店クレジットセンター
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京都店・東京店

近鉄百貨店グループ
四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

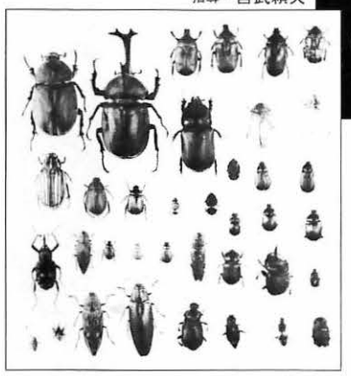
ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

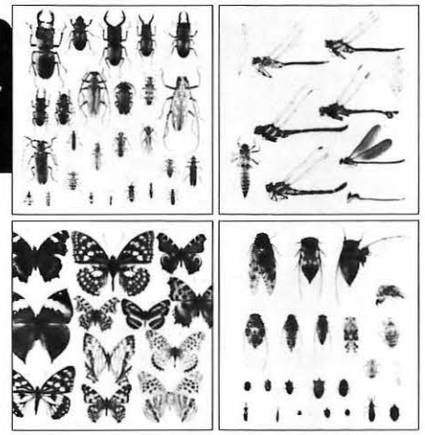
●オールカラー

むし

くらしとかいかた



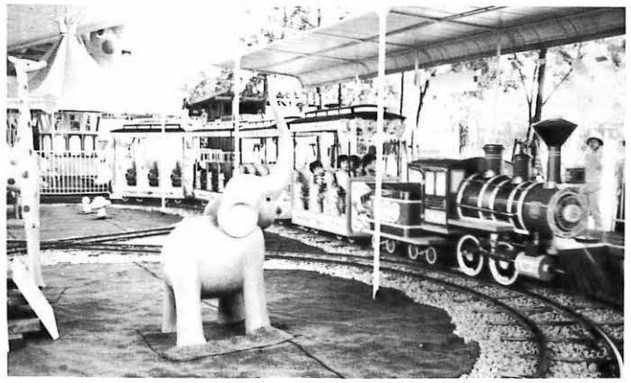
今まで、気にもとめなかった自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすばらしいことに出会えるはずだ。



B5・変形 84ページ 580円

ひかりのくに株式会社
〒543 大阪市天王寺区上本町3-2

たのしい〝のりもの〟が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娯楽株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種〝のりもの〟があります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 〝なきごえ〟

ご購読をお奨めします。
年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、 **大阪市天王寺動物園協会**へ
TEL 06-771-0201

世界初の最高感度

(カラープリント用フィルム)
1600 新登場!

カメラの大林
桜橋本店 ☎341—8091
三番街店 ☎372—5031

フジカラー HR 1600

ISO1600／33° 135-24枚撮

天王寺動物園
ZOO GUIDE の

ご購読をおすゝめします
(1冊 ¥450)
園内各売店にあります

あらゆる動物に愛の手を!

社団法人 大阪動物愛護会

全国の愛犬家の共感を呼ぶ
無比の愛犬歌集（絶賛再版）

歌集 **犬の歌**

（天金美装・箱入 B6判・270頁 2500円・〒不要）

動物文学会主宰
平岩米吉著
（直接申込乞う）

著者が，約40年の間に，共に暮した70余頭の犬の生と死を歌った419首を収録。同時に，その誕生より老齢に至る写真47図を収め，犬の一生の生態写真集でもある。

日本図書館協会選定
全国学校図書館選定

狼

その生態と歴史
犬科生態研究所長
平岩米吉著

A5判・320頁・
口絵挿絵等140図
定価2800円・〒300円

待望の日本狼の正史ついに完成！
〔改訂四版〕

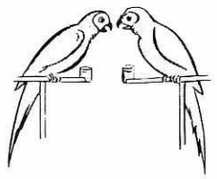
☆犬科動物の研究家として，当代随一の著者が，数十年にわたり収集した正確な資料を，生態学の目をもって描いた空前の書。
☆日本狼は，大口の真神とあがめられた古代より，のちには病狼と恐れられ，やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

主な目次

序狼への幻想と現実
1 犬科の分類と解説
2 犬と狼の関係
3 日本狼の歴史
4 狼狩の記録
5 狼の伝説
6 日本狼の特徴
7 日本狼の絶滅
終狼を飼った人々

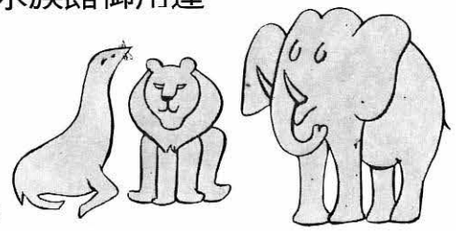
動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800

発売 ㈱池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

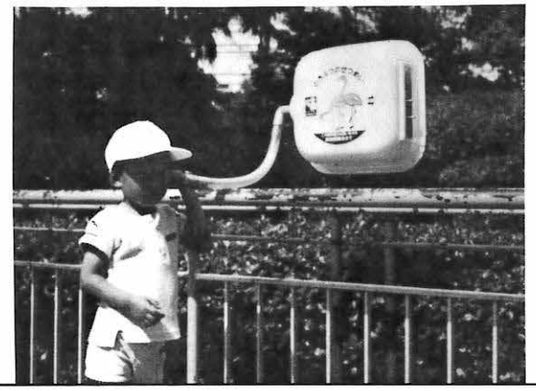


・医学実験用動物
・愛玩犬、猫直輸入
・宣伝用、テレビ用、貸動物
・教材用鳥獣剝製販売
・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494

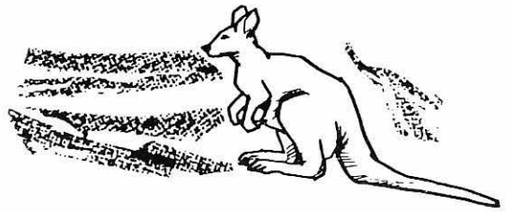
たのしい〝動物のお話〟は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

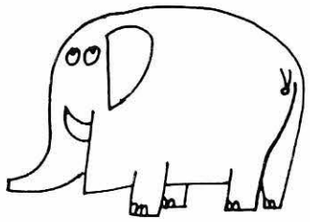
関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

……ぼっちゃん
……おじょうちゃん
どうぶつえんへ……
いらっしゃいませ……
ごきゅうけいは……
おしょくじは……



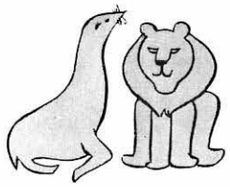
動物園内北園
中央売店
☎ (06) 771—0973

天王寺動物園内



南園売店
代表者 松谷良子
大阪市天王寺区茶臼山町6—74
電話 (06) 771—7110番

園内でのお写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますのでご説明に伺いました際は、よろしくお願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円
撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06—856—7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。

果肉とソフトヨーグルトの名コンビ

自然のおいしさ

雪印ヨグール

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

夜行性動物舎完成記念

キーウィの新発売ぬいぐるみ

1コ 2,300円

協会で……！

なきごえ　昭和60年3月10日発行（毎月1回10日発行）第21巻　第3号　（通巻235号）

編　集／大阪市天王寺動物園
発行人／大阪市天王寺動物園協会　中川道朗
印刷所／株式会社　松村善進堂　定価 100円（送料共）

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6－74
電話　大阪（06）771－0201
振替口座　大阪　37823
1年継続（12部）1,100円（送料共）

編集委員
土井　良彦・伊藤　重朗・小出　雅三・樽本　勲・中川　哲男・前田　豊彦・宮下　実
長瀬健二郎・榊原　安昭・森本　委利・大野　尊信・荻谷　文彦・農本　武志・野口　秀高
仲谷　登・柴田　総・薮野　幸司・堀　弘・大川　光雄